

---

# 原初の罪 知の獣と言語の神

柳 リョウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

原初の罪 知の獣と言語の神

### 【Nコード】

N5441Z

### 【作者名】

柳 リヨウ

### 【あらすじ】

神からの祝福として「言語」を授かった知の獣と、世界の均衡を壊してしまった言語の神のほんのはじまりの物語。

現在連載を始めていない「戦華姫」の番外編のような位置に当たり、アストリアシリーズの始まりの物語です。関連性は実に薄い。

月の、とても綺麗な夜だった。

月の神は今日は一段と力強く闇の帳を渡り、天上に残された黒の衣の隙間から漏れる光の粒もささやかに空を彩る。

そんな綺麗な夜に似つかわしくない悲鳴が耳をつき、一人の神が、顔を上げた。

肩元で切りそろえられた金の髪に、少々垂れ目な群青色の瞳。光の神族の一人である彼の名はフィア。司るは一つの獣に与えられた祝福である、『言語』。

彼はその獣の守護神と言っても過言ではないほどに、彼らとの結びつきが深い。そして、闇夜に響く悲鳴を上げたのがその獣とあつては、彼は動かすには居られない。

彼は宮殿を飛び出すと、風に乗りその悲鳴の主の下に舞い降りた。

2

そこにいたのは、一人の少女だった。

赤い髪を振り乱し、少女は懸命に襲い来る狼達から逃れようとしていた。けれども、彼女らはいかんせん足が遅い。強い牙も硬い甲羅もない。言語を祝福として得た彼らは、個々はとても弱い生物だった。

フィアは彼らの間に割ってはいると、静かに狼に語りかけた。

「私の名において、彼の少女を見逃していただけませんか、森の狩人よ」

狼達はしばらく恨めしそうにこちらを見ていたが、やがて踵を返し、森へと帰っていった。

「ああ神よ！」

少女は安心からか地面に座り込み、そのまま頭を地面にこすり付け

た。

「ありがとうございますファイア様！なんとお礼を申せばいいか」

「いいえ、いいのですよ。あなた方が無事ならそれで」

そっぴいなからも、ファイアは悲しそうな顔をしていた。

彼は万人を救うことは出来ない。力無いこの獣達は、身を守るだけの力を持たない。

ファイアは静かに少女の前で膝を付き、視線を合わせた。

「ファイア様？」

「言語の神より、あなた方に祝福を与えましょう」

青い光がファイアの手から浮かび上がり、少女の口に吸い込まれる。

「あなた方の言葉に、力が宿りますように。そして、万物の精霊があなた方に味方しますように」

慈しむように、ファイアは微笑んだ。

「さぁお帰りなさい。帰り道は木々が教えてくれるでしょう」

「はい、ありがとうございます！」

柔らかな微笑むと、少女は闇の中を駆けて行く。

それが罪の始まりとも知らず、ファイアは静かに微笑んだ。

(後書き)

人に「言霊」と「精霊の加護」を与えてしまった言語の神のお話。  
創作神話になります。

これを原初の罪、と形容したのは、この罪からすべての罪が生まれ出されるからです。

いつかこの次のお話を書きたいのですが、絶対長くなることが分かっているのではじめる勇気がwwww

この次の話が基本すべての話につながるので、この話はその話の番外編に近いです。

これがどのように罪につながるかは、しばらくお待ちくださいw

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5441z/>

---

原初の罪 知の獣と言語の神

2011年12月18日11時52分発行